

1. 評価報告概要表

評価確定日

平成20年8月4日

【評価実施概要】

事業所番号	1572500252
法人名	クラレテクノ株式会社
事業所名	グループホームちゅーりっぷ苑
所在地	新潟県胎内市協和町1831-1 (電話) 0254-43-2580

評価機関名	社団法人 新潟県社会福祉士会
所在地	新潟県新潟市中央区上所2丁目2番2号 新潟ユニゾンプラザ3階
訪問調査日	平成 20年 6月 21日

【情報提供票より】(20年 5月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16年 7月 1日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18人
職員数	16人 常勤 15人、非常勤 1人、常勤換算 15人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り
	1階 建ての 1階 部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 無
食材料費	朝食 300 円	昼食 300 円	
	夕食 300 円	おやつ 100 円	
	または1日あたり 1,000 円		

(4) 利用者の概要 (20年 5月現在)

利用者人数	18 名	男性 3 名	女性 15 名
要介護1	5 名	要介護2	1 名
要介護3	8 名	要介護4	4 名
要介護5	0 名	要支援2	名
年齢	平均 83.9 歳	最低 65 歳	最高 93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	中条中央病院
---------	--------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

管理者を中心として、利用者に「安心と誇りを持てる生活」を提供するといった理念を具現化するために、職員が一丸となってケアを行っている。事業所の規模は大きくはないが、研修やリスクマネジメント等の組織だった活動にも意欲的に取り組んでいる。小規模施設での家庭的なケアを提供し、組織としての活動もしっかりとなされ、バランスの良い運営をしていることが伺えた。ホームには小規模多機能型居宅介護と居宅支援事業所を併設しており、地域の認知症の高齢者を総合的にサポートすることが可能である。年々地域の認知度も高まって来ているとのことであり、今後も活躍が楽しみなホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>改善課題には計画的に改善に取り組んだ。「個別の栄養摂取状態の把握」では、併設施設の栄養士の指導を受けて献立を作成している。「金銭管理の支援」では、食材の買い物の場面等で支払いを利用者に依頼するなどして支援されている。「定期健康診断の支援」では、関係医療機関や利用者の主治医と協力して、利用者の健康管理への支援がなされている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価に全職員で取り組み、改善が必要な課題については計画的な取り組みがなされていた。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>利用者・家族、地域住民や市の担当者・地域包括支援センターなど幅広い委員構成にて会議が開催され、相互理解を築きながら双方向的な意見交換が出来るように工夫している。自己・外部評価についての報告・改善計画についても、ホームのサービス向上のチャンスととらえ、会議にて協議する予定である。また、市の担当者ともホームのケアサービスについて共通の認識を持っている。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>面会時や必要があれば随時、電話連絡や手紙、電子メールなど家族の望む形で、利用者の日々の暮らしぶりや体調の変化等を報告している。また、玄関に設置した意見箱や、面会時や年1回の家族交流会、運営推進会議等において、家族の要望や希望を聞き、職員間で協議し運営に反映出来るように努力している。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域のお祭りや文化展、近隣の小学校の運動会など、利用者が参加できる地域の催し物には積極的に参加し、地域の住民と交流している。</p>

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホームの理念として、「安心して誇りが持てる生活づくり」を掲げ、認知症の利用者の地域社会での生活を支え続けるという目的を実践している。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎月の会議等の機会に全職員で理念について考え、理念に立ち返れるように努めており、管理者と職員の共通認識が持たれている。		
2-2	3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるように取り組んでいる	家族には家族交流会やイベント等の際に、事業所の理念や運営方針について繰り返し伝えている。また、地域の人々へは、広報誌を回覧板にて回覧したり、認知症の予防教室等で管理者が折に触れて伝えている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域のお祭りや文化展、近隣の小学校の運動会など、利用者が参加できる地域の催し物には積極的に参加したり、散歩や買い物の機会などに地域の住民と交流している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価に全職員で取り組み、改善が必要な課題については計画的な取り組みがなされていた。また、年に1回、個々の職員の業務を見直す機会ともなっている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行ない、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者・家族、地域住民や市の担当者・地域包括支援センターなど幅広い委員構成にて会議が開催され、相互理解を築きながら双方向的な意見交換が出来るように工夫している。サービス向上のチャンスととらえ、自己・外部評価についての報告・改善計画についても協議する予定である。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者は運営推進会にも参加しており、ホームのケアサービスについて共通の認識が持たれている。また、ホームから随時相談が出来る体制が整っている。		
6 - 2	11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	職員を外部の研修会に参加させるほか、内部での定期的な学習会も持たれ、職員に虐待防止や関係法令についての考え方が周知されている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時や必要があれば随時、電話連絡や手紙、電子メールなど家族の望む形で、利用者の日々の暮らしぶりや体調の変化等を報告している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置するほか、面会時や年1回の家族交流会、運営推進会議等において家族の要望や希望を聞き、職員間で協議し運営に反映出来るように努力している。		
8 - 2	16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員と管理者の個別面接や日々のミーティング、職員が一堂に会する職員会議等において、運営に対しての意見や要望を聞き取り、方針や予算等に反映している。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は必要最小限としており、利用者や職員の馴染みの関係や信頼関係が維持されている。また、異動がある際には、引継ぎ期間を長く持ち、利用者や家族にもお知らせすることで不安を軽減するように配慮している。		
9 - 2	18 - 2	マニュアルの整備 サービス水準確保のための各種マニュアルが整備され、職員に周知されている。また、マニュアルの見直しが適宜行われている	感染症・急変時・基礎介護など各種マニュアルが整備されている。また、適宜追加・改正がなされている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人職員の教育制度が整備されている。また、中堅・リーダー層についても段階的に外部研修を受ける機会を設けている。内部研修は年間を通じて計画的に行ない、職員の資質の向上に努めている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者及び職員が近隣の事業所との合同学習会に参加している。相互訪問実習も行い、ホームの優れている点や不足している点について理解し、サービスの質を向上するよう努めている。		
11 - 2	21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	管理者等に対して職員が意見や悩み等を言いやすいように、個別面接の機会を持つなどして配慮している。また、「働きやすい職場であることが良いケアを育む」との考えを基に、労働環境の整備も熱心に行なわれている。		
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用前にはホームを実際に見学して長時間滞在してもらい食事を共にしたり、希望に応じて利用前に体験宿泊も受け入れている。このような取り組みによって、利用者の戸惑いや不安を軽減するよう努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、利用者と生活を共にし、魚の下ろし方や煮物の味付け、畑の管理方法等の生活の技や知識を利用者から学び、支えあう関係を築いている。		
13 - 2	28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話で利用者の暮らしぶりや身体状況を家族に報告し、必要に応じて助言を求めるなどして、良い関係が築かれている。敬老会や運動会、夏まつりなど家族と共に楽しむ行事も行なっている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式のアセスメント様式を用いて、利用者の思いや暮らしの希望について、本人・家族・関係機関から十分に情報を収集している。また、利用者一人ひとりの考え方や希望についての生活の中で気づきを、職員で話し合い、共有している。		
14 - 2	34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式のアセスメント様式を用いて、これまでの暮らしや、好きなことや得意なことについて情報を集約している。必要に応じて介護計画にも組み入れ、合同カンファレンス等によって職員に周知されている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人・家族の希望や要望と合わせて、毎月の合同カンファレンスや、必要時には随時協議している。また、主治医や併設施設の看護師の意見や助言も参考にして、チームで介護計画を作成している。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	少なくとも6ヶ月に1回のモニタリングを行ない、状態変化が生じた際には随時介護計画の見直しがなされている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な対応					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	関係医療機関と連携して、状態に応じて看取りを支援できる体制がある。また、家族が遠方から面会に来られた時に宿泊できるよう予備室が設けられている。利用者の希望する外出も支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者が希望する主治医への受診や往診を支援している。緊急時には主治医や協力医療機関と連携して対応できる体制が確保されている。通院の付添は基本的に家族が行うが、緊急時等は職員が対応することもある。また、受診や往診の結果を職員と家族で共有化している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	状態に応じて、看取りまでのケアを提供できるとのホームの方針が、本人・家族に周知されている。また、個々の利用者の状況に合わせて、主治医と職員間での話し合いや家族との相談を随時行なっている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者一人ひとりの尊厳を傷つけないように配慮した関わり方や支援がなされている。また、個人情報保護等に関する関係法令に対する学習会も開催し、理解を深めている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	料理や清掃は、利用者の出来ることを、生活の中で実践できるように配慮している場面もあった。しかし、個々の利用者の得意なことや希望を取り入れた過ごし方や活動としては十分ではなく、集団での行動となることが多い。		アセスメントの情報を活かし、利用者一人ひとりの望む生活の場面をさらに増やすことによって、今後さらに、利用者個々の主体性を活かした生活を支援することが期待される。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の食材を活かして、利用者の希望も聞いて献立を作成し、個人の能力に合わせて利用者や職員が共同して食材の買い物や食事作りを行なっている。職員も利用者と一緒に同じテーブルで食事を摂り、食事を楽しめるよう支援している。		
22 - 2	56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	利用者一人ひとりの排泄パターンを把握して、個別に自立に向けた支援を行っている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	希望すれば毎日でも入浴が可能である。入浴時間帯についても利用者の希望に応じており、入居前の生活習慣を継続できるように夕食前後の入浴が出来るよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯たたみや野菜作り・食事の下ごしらえ、食器洗い、テーブル拭きなどのホーム内での役割に加え、毎月の外出等の行事など、利用者一人ひとりの出番や楽しみごとが見出されるよう、場面作りの支援がなされている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候の良い時期は近所への散歩や日々の食材の買出しに出かけているほか、地域の行事や利用者の希望に合わせた外出支援が行われている。また、利用者の希望によっては、家族にも協力を依頼して外出を支援している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
25 - 2	65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を行わないという共通の認識が図られ、実際に身体拘束は行われていない。関係法令についての学習会も実施されている。		
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関には鍵がかけられておらず、センサーにより出入りが確認できるようになっており、利用者の自由な生活を支援している。		
26 - 2	69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故発生時にはすぐにミーティングで話し合い、事故報告やヒヤリハット報告書を作成し、事故の再発防止に努めている。また、様々な場面でリスクに対するマニュアルが整備され、職員に周知されている。		
26 - 3	70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行なっている	緊急時の対応マニュアルを整備するとともに、定期的に消防署に依頼して救急救命法の研修会を行い、急変や事故発生に備えた取り組みを行なっている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるように働きかけている	年間2回の防災避難訓練を実施している。また、隣接する本社独身寮の入居者が地域協力員となっており、災害時の協力が得られる体制が確保されている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人の栄養士の指導を受け、栄養バランスに考慮した献立で食事の提供がなされている。また、ミキサー食や刻み食等の状態や体調に合わせた食形態の提供も可能である。水分摂取についてもこまめにお茶をすすめ、確認が必要な利用者については1日の水分摂取量を把握して支援している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり</p>					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共有空間は十分なスペースが確保されており、ソファやテーブルが配置されているが、季節感や生活感が感じられる設えや装飾等があまりない。</p>		<p>共有空間に、利用者に馴染みのあるものや季節感を感じられる装飾などを取り入れることにより、利用者がより豊かに安心して生活できるよう、さらなる環境づくりに期待したい。</p>
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室には利用者がこれまで使用してきた鏡台等の日用品が持ち込まれていたり、家族や思い出の写真が飾られているなど、それぞれ落ち着いて過ごせる場所となっている。</p>		